



ブータン王国シンカル村における所得向上と住民共助による生活基盤の継承・発展（2018年～2021年）

ブータン山村の協同性を活かした生計向上

■ 実施団体：

学校法人 甲南学園 甲南大学

■ 対象国・地域：

ブータン王国

■ 現地カウンターパート

シンカル福祉協議会

■ 協力内容：

- ・乳業協同組合の立ち上げ（乳製品加工・販売による所得向上）
- ・水路の護岸（水路脇の村道や畑の土壌侵食からの保護）
- ・水車の改修（製粉用の伝統水車の保全・再活用）

■ 団体のこれまでの取り組み：

甲南大学はミディアムサイズの総合大学として、学生一人一人の天賦の才能を引き出し、人間としての総合力を高める教育に努めている。本事業の実施主体、マネジメント創造学部ではブータンを含むアジア7か国での体験学習の機会が提供されてきた。

■ 事業実施の背景：

シンカル村では近年、他の村落同様、現金収入の必要性が高まるとともに、村落生活を支える住民共助も低調になっていた。そうした中、所得向上の機会創出と住民共助の活性化に、村出身者から成る同郷人会（上記、シンカル福祉協議会）と協力し、取り組むこととなった。同郷人会はそれまで、寺の改修や祭りの再興など、村の仏教伝統の継承・発展を支援してきた。本事業で、同郷人会の活動が生計向上支援に広がることにもなった。



シンカル村の課題と事業の成果

課題①

シンカル村では乳製品（チーズ・バター）が各世帯で家内製造・消費されており、生計向上のポテンシャルが活かされていなかった。

成果①

乳業協同組合活動が2018年8月に始まり、世帯平均で1・2年目ともにNu.4万以上の追加所得が生まれた（2017年の現金収入はNu.8万）。
* 3年目は感染症拡大のため閉鎖を余儀なくされたが、2021年9月に再開し継続中

課題②

水路の土壌侵食や水車の故障など、村の暮らしに関わるインフラの不備が放置されていた。

成果②

住民共助を通じた水路の護岸工事と伝統水車の修復が行われた。土壌流出の危機が回避されるとともに、伝統水車が以前のようにムギヤソバを挽くために使われるようになった。

事業の波及効果



当初の想定を越えた効果の波及

- ・村ではその後、香づくりの組合が発足し、薬草茶の製造販売の起業もあった。これらの新活動にも同郷人が関わっている。この点で、同郷人による生計向上支援に先鞭をつけた本事業の成果が波及している。
- ・兵庫県丹波市の研修映像（甲南大学の学生が企画、英語字幕、中止となった訪日研修の代替）は、一部の地元関係者に英語での自己紹介に使われている。このように日本国内にも成果が及んでいる。